

が見つけた遠隔授業での学び

本企画は、遠隔授業を受けている福大生の皆さんにインタビューし、遠隔授業での学びや大学生活について紹介するものです。学生の皆さんには、同じ学友としての仲間が苦労しながらも頑張っている姿をとおして、少しでもヒントを得てもらえればと思っています。七隈キャンパスに集えない状況ですが、福大生たちが共に学んでいる様子をお伝えしていきます。



人文学部
日本語日本文学科
2年次生

椎葉 美羽 さん

Case7：カギはモチベーションの自己管理

今回のインタビューは、人文学部・日本語日本文学科2年次生の椎葉美羽さんです。現在の状況の難しさを感じながらも、授業を受ける際の工夫や、自分なりのモチベーションの上げ方などについて、たくさん語ってくれました。大変な状況だからこそ将来を見据えてできることを探す、小さな努力を積み重ねる、そのような姿には遠隔授業下で学ぶためのヒントが隠されているのではないかと思います。(注：インタビューは、前期の内容に基づいています)

遠隔授業を受けることの難しさ

1年生の時はグループワークがある授業を多く受けていたので、それから遠隔授業へというのは変化が大きかったですね。1年生の時は上手くできなかったこともあり、今年こそはグループワークをもっと頑張ろうと思っていたのに、グループワークを予定していた授業の多くが講義形式になってしまい、とても残念な思いをしました。先生方もグループワークをしたいとおっしゃっているのですが、物理的にどうしても難しい部分があるようで。

受講する学生からすると、授業の特徴に合わせて遠隔授業の形態を決めてくださると、ありがたいのかなと思います。授業内容や課題などの量が多い場合はオンデマンド型が適していたり、外国語などはリアルタイム配信型ですぐに質問できた方がやりやすいと思います。

一方で教材配信型は、他の形態に比べると、自分が課題をこなすだけになりがちで、一方通行というか、課題内容だけしかわからない、先生の顔も知らないなんてこともあります。「ちゃんと理解できているのかな」、「ただ課題をやっているだけかも」と、自分がわかっているのかさえわからず、不安になることも多かったです。

ラジオ番組のような授業

もちろん、遠隔授業ならではの良さを感じる授業もあります。例えば、学科の専門科目でラジオ番組のような形式で行われるオンデマンド型授業が面白かったです。先生は、受講生が提出した予習課題を基に授業資料を作成してくださるんですが、受講生たちの意見が反映されているので、自分一人で受けている感じがしないんです。日記を書く課題が出された時に、好きなアーティストや俳優さんについて授業用のWeb掲示板に書き込んだら、他の受講生が「私もその俳優さん好きです」と返してくれて盛り上がり、Web上でも受講生同士の会話が成立していました。

加えて、先生にメールを送ったりするのが、ラジオ番組にハガキを送ったりしている感覚に近く、私が「オールナ

イトニッポンみたいですね」と感想を書いたら、次回の授業はラジオ番組風のタイトルが付けられていました(笑)。先生が受講生の意見に応じてくれようとしていることが伝わってきて嬉しかったです。この授業は、学生みんなで授業を受けている感覚があったり、先生との意見交換も出来たりと、遠隔授業ならではの楽しい授業でした。

自分の遠隔授業の受講スタイル

対面授業の時は“教室に入る”ことが授業スイッチだったんですが、遠隔授業の場合は、切り替えが難しい部分がありますね。対策として、10分前には入室したり、なるべく早めに起きておくようにすることで、気持ちを切り替えることを心掛けています。集中できないときや眠いときもあって、その時はシャープペンで手を軽くチクチク刺すことも(笑)。パソコンを使う授業でない場合は、スマホで授業を受けるんですけど、その時はスマホスタンドを使っています。スマホを充電しながら安定して使えるのでおススメです！授業中は頑張ってメモをとるように心がけています。



遠隔授業中の机周りの様子

モチベーションの上げ方

音楽のライブが好きなので、ライブのDVDやYouTubeなどを観て、気分転換をしています。コロナの影響で、参加予定だったライブが中止になってしまったけど、オンライン開催になることで、授業が通常通りあったら行けなかったライブにも参加できたのでむしろ良かったです。画面越しでもアーティストを近くに感じられるように演出が工夫されていたり、チケットも紙で貰えたので、ライブ配信も楽しいなって思いました。

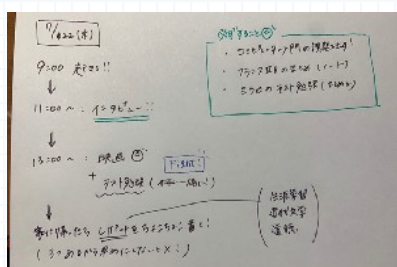
他には、雑貨が好きなので、その日買い物に行くことを目標に、閉店時間前までに済ませたい課題を終わらせようと

頑張ったりと、「何かのために頑張る！」という目標や状況をつくって工夫をしています。自分なりにエンジンをぶら下げて（笑）。また、一日家にいる日でも、敢えてお気に入りの服や新しく買った服に着替えたりしています。気分がシャキッとしますよ！

私なりの課題への取り組み方

課題は、学期末に近づくほどに増えてきました。自分なりの工夫として、今出ている課題を一覧に書き出して、机の見えるところに貼っています。課題が一つ終わったら横線で消していくことで、終わった！感を得られます。この課題リストを作ることで、課題の量と自分のペースに応じた計画もできていくなと感じています。提出日の一日前を自分の完成期限に設定し、直前に焦らないように余裕を持って提出できるようにしています。1日で終わらないと感じる課題は、少しずつ進めていっています。

また、課題ばかりやっていると他のことがやりたくなる性分（笑）、集中力が切れたときにこの課題リストを書いたり、明日の一日のスケジュールを書いたりすることで、気分転換をしています。スマホでスケジュール管理するよりも、手を動かして書き出す作業がリフレッシュになります。



手書きで作成した一日の予定

今感じる大学での学び

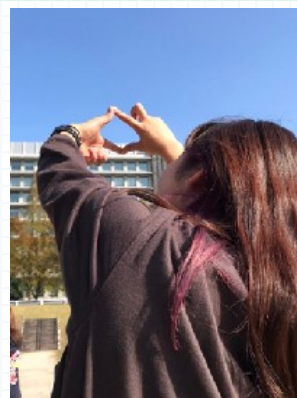
現在のような状況になって、「大学に行く」ということの意味があるなと気づきました。遠距離を通学している人は大変だと思うんですけど、友達とすれ違ったり、教室に入ったりするだけでも、何かしらの意味があったりするのかなと思います。ちょっとした会話が生まれたり、何気ないことが起こったりする中で、友達との関係性が出来ていたり、先生と直接お話することでも何か変わってくるのかなと思います。それに、対面授業のときの方が、ノートも頑張って取っていたし、しっかり授業を受けていたなあと思います。難しい状況であることはわかっているんですけど、大学に行くことの意味はそういう何気ないところにもあるのかなと改めて感じています。

そんな中、先生が学科の新入生歓迎会を企画してくださ

り、上回生としてボランティアで参加しました。オンラインでの開催でしたが、少人数のグループに分かれて1年生と交流することができ、とても楽しかったです。1年生に学科の雰囲気や少しだけでも伝わっていたらいいなと思います。

将来の自分のために

一回諦めかけたのですが、特別支援学校の教員をもう一度目指そうかなと思っています。特別支援学校の教員になるには、教員養成系の大学でないと難しいのかなと思っています。大学入学当初は国語科の教員を目指すつもりでした。教職の先生に質問したら、「大学院に行ったら免許も取れるよ」と後押ししてくださったので、今は情報を集めたりしています。中学生のときに、支援学級の生徒と一緒に授業を受けることが多かったんですが、その経験がとても楽しいものだったんです。生徒同士の関係性がすごくよかったなと感じていて、少しでもそういう関係を作れる教員になりたいと思っています。



福大生へのエール

自分の本心と向き合う

1年生は、受験を頑張ってやっと大学に通えると思っていたのに、それが出来なくなって相当辛い思いをしていると思います。今の状況を悲観してしまっている人も多いのではないのでしょうか。逆に、通学時間がなくなったりで色々考える時間も増えているのだと思うんですけど、この機会に「自分がしたかったことって何だろう」と考えておくと、いざ大学に行くようになった時に、「これをしようかな」とか、2年次の授業を選択する際に「もっとこういう授業を受けよう」とか動くことができるかなと思います。大学生活は、意外とあっという間に時間が過ぎてしまうので、自分がしたいことや楽しいことをたくさん考えて、今を乗り越えて欲しいと思います。



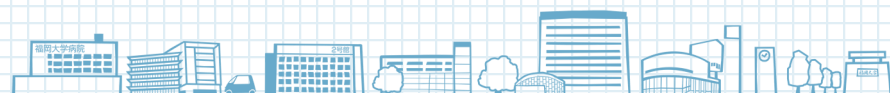
注：Webでインタビューさせて頂いた内容を元に再構成しています。文責は、インタビュー担当者にあります。



目指せ！遠隔授業マスター☆

今回のキーワード：逆境を次へとつなげる

逆境や困難な状況においてどのようにひとは頑張れるかは様々に研究が行われています。例えば、自発的な回復力とされるレジリエンス (resilience)、やり抜く力であるグリット (grit) はそのなかでも有名な概念です。これらの力を活性化するには、長期的な視点を保つこと、良い事を期待する、より現実的な目標を立て、それに向かって実行していくこと、それを楽しむことなどがすすめられています。椎葉さんが言われているように、難しい状況ですが、自分なりに次へとつなげていくことを意識してみてもいいかなと思います。



編集・発行：福岡大学教育開発支援機構（A棟地下1階）

内線：2852・2853 E-mail：kyokiko@adm.fukuoka-u.ac.jp

HP：http://www.idshe.fukuoka-u.ac.jp/ Twitter：@fu_idshe

令和2年11月20日発行